

わねもこっ 第6号

1999年12月17日 発行

軽井沢野の花物語

60年前、
軽井沢高原は
こんなだったの



六〇年前、少女の私にとって春を一番に感じる花は、神社に咲いていた「いもの花」です。和名はアズマイチゲですが、根が芋のようなのでそう呼び、花を摘むのを楽しみにしていました。今は塩沢の神社あたりに少し咲くようです。

ままごと遊びはいつも野の花で、白色の花はごはん、黄色の花はおかずに使いました。ねじ花は花をしごいてよく使いました。おせんばな（和名フシグロセン

ノウ）は、裂いてお膳に見立て使いました。ふでりんどうは、髪飾りになりました。お盆の頃になると、蚤の世話の合間に「学校から帰ったら盆花とりにいくよ。」と言われ、おみなえし、ききょう、なでしこ、とりかぶなどを採りに、今の72ゴルフ場あたりへ行きました。——山でうまいはおけらにととき——と言っておけらやとき（和名ツリガネニンジン）を採ってきて食べたものです。よもぎもよく摘みました。黄色のかんそうばな（和名アサマキスゲ）をたくさん摘んできてよく干しておき、冬のごちそうに酢の物やおひたしにして食べました。これらの花々を今はぜんぜん見かけません。何年前か前、よその地のドライブインで見ても懐かしくなり、あの花はどこへ行っちゃったんだろうと思いました。



オキナグサ



オキナグサ——軽井沢の方言でちんころばな、昔はいっぱい咲いていたけれど今では懐かしく思い出される花、自生ではほとんど見かけなくなった花の一つです。

そんなオキナグサを育てて増やし続けているYさんのお庭におじゃまさせていただきました。

かつては軽井沢から追分にかけて、信越線の土手一面、オキナグサの花が春を彩っていました。でもそれは信越線が単線だった頃のこと。複線化したとき（軽井沢—中軽井沢間昭和42年完成）、線路沿いのオキナグサはほとんど姿を消してしまい、今ではほんの一部残るのみです。他の自生地も時代の変化とともに急速に減ってしまいました。

Yさんは17～8年前から自宅の庭で育てるようになりました。オキナグサは五月の連休の頃花を咲かせ、その後白い羽毛のような集合果をつけます。その銀髪を思わせる実の様子から「翁草」というのだそうです。採れた実（種子）は毎年、野草を好きな方に配ったり、ご自分の手で増やししたりしています。

種をまいて2、3年目に花を咲かせます。その頃には根っこも20cmくらいにごぼうのように伸びているそうです。

新幹線が開通し軽井沢の駅前広場に新しく花壇ができた時、オキナグサを植えたところ、ことごとく盗掘されてしまったそうです。でも前述のようにオキナグサは根が長いので、ほり起こした時ダメージを受けて、移植しても絶えてしまうとのこと。草花が好きで持っていてしまうのですが、ほんとうに好きならばそのままにして毎年毎年花を咲かせるのを皆で楽しんでほしいですね。

(y)

オキナグサを育てよう!! のコーナー

☆ 種子がとれたら（手に入った）ら
はやめに、じかまきにします。

☆ 金本で育てる場合。

浅まき厳守

浅金本にタネをまいたら
うすうすと土をかける
程度。



このまま冬越し

翌春、庭へ直植え

オキナグサは日当たり、
水はけの良い土地を
好みます。

翌春、芽が出たら移植

※ 次に移植する時は、根を痛めないよう、植木金本から土ごとスワカ、抜くこと。

きんぼうげ、うめばちそう、あやめ、ちんころばな（和名オキナグサ）、まつむしそう、きんたま花（和名アツモリソウ）、さくらそう、あさまふうろが咲いていて、手紙に百花繚乱とよく書きました。

うつぼぐさは利尿剤ですが、昔はそのような事は知らなくても、おしつこの出が悪いと聞けば、この草を採ってきて干してからあげました。

また、とうすみ（花いかだの茎）で笛を作ったり、おおぼこで草すもうをしたりと、今では懐かしい思い出です。

あの頃はそれこそいたるところに咲いていた野の花が季節を教えてくれましたが、今では探さなければ無い、人が育てなければ咲かないありさまです。野の花を鉢植えにして店頭で売っているのを見ると悲しくなりま

す。それに売っているおきなくさを見たことがあります。花が大きいですね。昔、野原に咲いていたのは、もっと小さくて可愛かったのですが、。ま

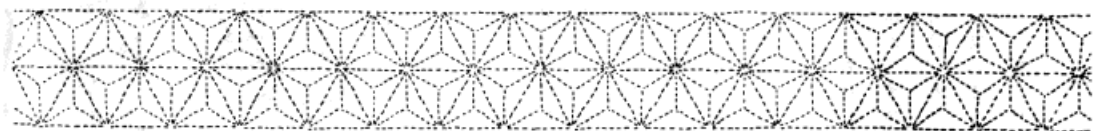
た、きんぼうげが無くなったのが、私には特に悲しいことですが、この野の花の話をするのにあたって、昔の光景が目には浮かび花ふきんを刺しながらとつてもいい気分になりました。

* * *

以上、七〇代の会員の方のお話です。

私も四〇代の主人に聞きましたら、お盆の頃に父親と、われもこう、なでしこ、ゆりなどを発地の山へ採りにいった、とのことでした。今はほとんど花屋さんで買いますよね。72ゴルフ場が原っぱだったということが、私にはおどろきでした。

(M・T)



雑木林の博物誌

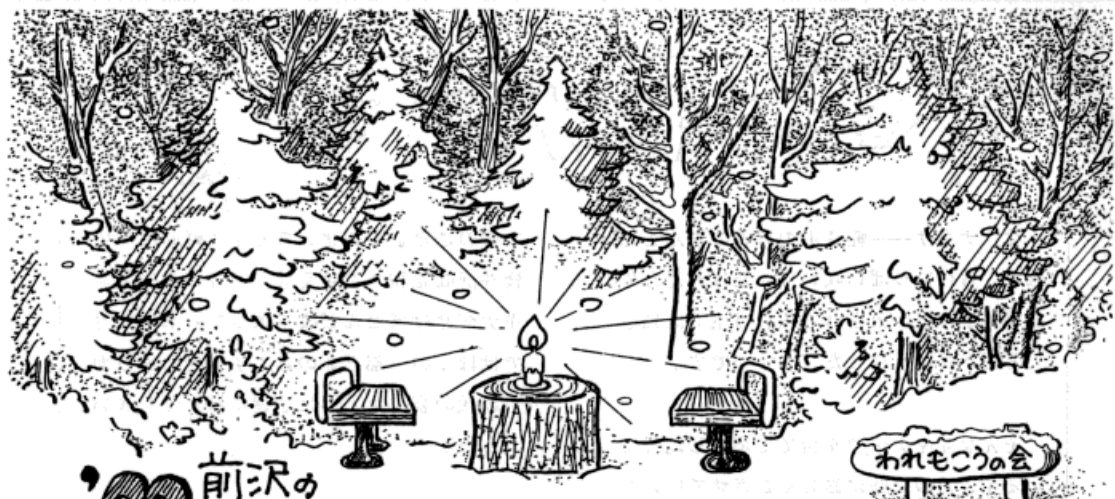
足田輝一 著

新潮選書

この本おすすめ!



「武蔵野の雑木林は、自然と歴史の接点につくられた、美しい景観である。そこでは豊かな草木が四季を彩り、懐かしい人間の生活が営まれていた。今多摩の丘々に開発の響きは高く、雑木林は歴史の波に消え去ろうとしている。もう一度、私達が失おうとしている美しいものを見つめてみよう。雑木林が黙示しているもの、それは自然の中に生きてきた人間の歴史の草叢であり、現代文明への鋭い警鐘ではないか。」（著者の言葉から）——軽井沢の雑木林の価値を再認識できます。——



'99 前沢の 原っぱにごくろうさま!!

九九年も終わろうとします。みなさん、前沢の原っぱを見ていただけただけでしょう？素人ばかりの「われもこうの会」も二年目になり、少し自信が出てきました。これも、いつも温かく見守ってくださっているみなさんのおかげです。ありがとうございます。

十一月には、北の「原っぱ」に素敵なテーブルと、ガーデンチェアがやってきました（イラスト参照）。散歩の休憩に、保育園のお迎えにも、もちろんデートにも、お使いください。春が楽しみです。

「前沢の原っぱ」にもっともっとと軽井沢らしい野草を増やしていきたいと思っています。来年には別の空き地にも花を増やせたら、と希望しています。

あなたのお庭で軽井沢の花を

咲かせて下さい

「われもこうの会」で増やした野草の種があります。今から春までが蒔き時です。ご希望の方はお近くの会員に声をかけて下さい。

- お分けできる野草の種
- ・オミナエシ (二年草)
 - ・ワレモコウ・キキョウ
 - ・アヤメ・アサマキスゲ
 - ・コバギボウシ
- (以上多年草)